

神戈陵を渡る風

令和3年度 川辺高校 校長通信 第030号

令和3年11月19日(金)発行

いよいよ明日は、川辺高校の記念すべき創立120周年記念式典です。本来ならば、昨年実施されるはずの式典でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、一年の延期となっていました。しかし、開催できることをたいへん嬉しく思っています。県下有数の伝統校である本校は、地域の誇りであり、皆さんを支えてくれる支援者(同窓生)がたくさんいることを改めて感じる絶好の機会だと思います。みんなで協力して、式典を祝いましょう。

学年朝礼より

令和3年11月8日(月)

【3学年高山先生のお話】



屠龍技 (とりゅうのぎ)

この言葉は「莊子 夔寇」によると、昔、中国の山奥に悪い龍が住み着き、時折現れては村人に害を与えていた。1人の青年が、誰かがこの龍を退治しなければならないと考えて、その龍を屠る技を身につけるべく一生をかけて体を鍛え、技を磨き、万が一に備えた。がその龍は二度と現れなかった。このことから「無駄な努力」という意味で用いられる言葉です。しかし、東京消防庁ハイパーレスキュー隊は、「われわれは龍の出現の有無に関わらず屠龍技を磨く。実際には天災は起こらないほうがいい。だから無駄になった方がいい。ただし、万が一、龍が現れたら一撃の元にこれを屠る。それが我々の目指すところである。」と捉えられている。勉強でも一見無駄に思える努力が、いざというときに役立つということです。

【2学年松下先生のお話】



新人戦などの県大会が行われた。大会を終えて、勝った・負けたの結果だけ見ているのは、強くはなれない。敗因を突き止め、こ

からの練習に生かしてこそ意味がある。

模試も同じですね。受けっぱなしでは、得られるものは少ない。自己採点だけで終わらず、復習までやって模試の意義が生まれます。

【1年生, 出前授業理科実験を体験】

10月にサイエンス同好会と有志の生徒が川辺中で行った理科実験出前授業の内容を参加した生徒が今回も解説者として一年生全員に実験を体験してもらいました。来年度は、ぜひ、皆さんも参加してみましょ。



なぎなた新人戦

11月7日(日)



演技競技(上)と個人試合(下)



県体育館で「なぎなた競技」の新人戦が開催されました。本校生は9名が参加し、団体優勝しました。個人試合は2年生の上牧大佳(かまきひるか)、演技競技は2年生の上牧・迫莉々々樺(せりりか)組が優勝しました。来年3月兵庫県で行われる全国選抜大会の出場権を獲得しました。



全競技が終了後、出場者全員がなぎなたを持って整列し、演技競技の基本となる所作をなぎなた協会の先生方や鹿屋体育大学の学生さんから直接指導を受ける事が出来ました。基本姿勢の意味や細かい位置の確認は全国で通用するレベルか否かを定める重要なポイントです。お互いに切磋琢磨し、競技力の向上に努めて欲しいものです。

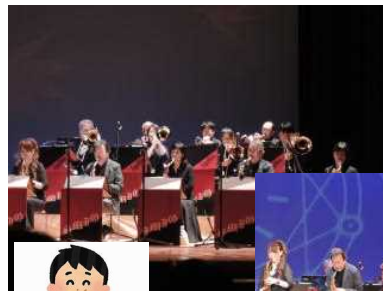


力まず、凜とした姿勢は千利休の名言に『守りつくして 破るとも 離るとても 本(もと)を忘るな』の「守・破・離」の守である師の教えや基本を忠実に守り身に付けるを実現することに不可欠だと思います。基本に忠実になること、迷ったときこそ基本に立ち戻る勇気を持つこと。心の内に堪えることのない闘志を秘めながら、川辺高校の伝統を繋ぎ、更なる高みを目指して欲しいと思っています。

JAZZコンサートを校長が初体験

11月6日(土)

土曜の夜に、川辺文化会館で行われた地元のJAZZオーケストラ(Sound Mates)の演奏会にトロンボーン奏者として出演しました。



川辺には、ジャズオーケストラが誕生して41年もの歴史があります。音楽の街といわれる川辺は色々なスタイル音楽(クラシック・JAZZ・吹奏楽など)が溢れています。